



2007年11月発行  
 (平成19年11月)  
 千葉県立匝瑳高等学校  
 同窓会事務局  
 〒289 2144 千葉県  
 匝瑳市八日市場イ 1630  
 TEL .0479 72 1541  
 FAX .0479 73 6146  
 代表：古谷健一

# 平成19年度定例総会終わる

新会長に 古谷健一さん(高15)  
 次期会長は 加瀬武彦さん(高16)



平成19年度定例総会は、六月二十四日(日)に母校西城館にて開催。午前九時、別室に設けられた呈茶席でのお茶会が開始、会場の生け花やお茶会は文化部の方々の数年来のお力添えである。  
 午前十時総会開始。伊野松

も全員承認された。ちなみに高16回生は、いわゆる終戦つ子で、本校同窓会役員にいよいよ戦後生まれが登場することになる。  
 なお、総会席上で、第21代会長の井橋力さん(中19・20)「同窓さふさ」初代編集長松

## 全国定通陸上競技大会 走高跳 家鍋君 一連覇



優勝トロフィーと賞状を手にした家鍋君

**家鍋健太君談**  
 記録1m90cm、優勝できて幸運でした。

練習時間はあまりとれませんが、短い時間を有効に使って、来年もぜひ優勝したいと思えます。

### 同窓会専用

## ホームページを開設

懸案だった同窓会専用のホームページが開設された。さる六月株式会社サラトと委託契約を結び、管理・運営するものである。  
 母校の沿革や歴代校長・校歌・同窓会会則はもちろん、最新の「同窓さふさ」も見られる。  
 内容については充実を目ざし、HP運営委員会を設置、委員長に玉澤宏さん(高15・総務部長と兼任)が就任され

八月中旬に二度開催し、ホームページに関する全般について検討した。さらに今後も検討を重ね、魅力あるホームページ作りを推進して行く予定である。  
 会員の皆さんからのご意見ご要望も大歓迎です。どうぞお寄せいただきたい。

井安俊さん(中19・20)に感謝状と記念品(長老杖)が贈呈された。  
 総会終了後、岡山大学理学部長の加瀬克雄さん(高15)により「人間が生存できる地球環境はどのように形成されたか」と題した講演及び玉澤宏さん(高15・総務部長に就任)による歌とトークがあり、盛会裡に終了した。その後、梅田屋に会場を移し、懇親会が行われた。

# ふるさとへの山に向かいて

会長 古谷 健一 (高15)



同窓会会員の皆様にはご壮健にてお過ごしのことと存じます。能力を顧みず、大変なお役をお引き受けし、戸惑っている所でございます。何卒ご支援、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

昨年より、副会長「見習い」として、母校や同窓会関係の諸活動に参加いたしました。「ふるさと」の山に向いて言うことなし、ふるさとの山はありがたきかな。四十年ぶりにハラハラ、ドキドキ、その山(母校)に一步、踏み出しました。幹事会、総務部会、体育部会、文化部会、卒業式、文化祭、バザー等々を通じ、母校の後輩たちは皆、礼儀正しく、健全な若者と感心しまし

た。校長先生始め、現、旧教職員の皆様が一樣に母校に対する強い愛情と、生徒に対しても慈しみ育てている様子が感じとれました。そして、同窓会関係の役職者、前任の先輩方々も同様に会の運営に熱心に取り組み、熱い議論を交わしております。

各支部におきましても、様々な活動がされています。ウォーキングしながら地元の名所、遺跡の探索、恩師や各方面で活躍の先輩方の講演会、地元町内の子供たちとの交流の中で思いやる心や礼儀作法等の教え、看護師の方々の高齢者、病気に悩む方々への介護や相談室の設置の活動等、年二回のチャリティーゴルフの開催(収益金を同窓会へ寄贈)等々、それぞれの活動の中に自らを高めながら一層の親睦を深め、奉仕の心を養っている姿に敬服致しました。さて、会費の件で恐縮です

が、「恒産なくして恒心なし」と言われるように、心地よいふるさとの山を維持するには費用がかかります。

- 二万数千人の同窓会会員の皆様への「さふさ」の年一回の発行、発送費用(約六百万円)
- ホームページ開設費(約六十万円、毎年の運営費(約三十万円))
- 母校の教育活動、文化活動、スポーツ活動への支援金等(約百万円)

以上が出費されておりますが、当該年度に納入される会費では会の運営に要する額に達せず、過去に終身会費を積み立てた積立金を取りくずしているのが実情です。今後の同窓会運営のため、これらの諸事情をご理解いただき、ご協力賜りますようお願い致します。何人にも代えがたい素晴らしい友人、恩師、先輩、後輩との有意義な、豊かな交流は、私達の大きな喜びでございます。

## 平成19年度 役員一覽

会長	古谷 健一 (高15)
副会長	加瀬 武彦 (高16・次期会長) 山崎 忠義 (高15・匝陵会) 菅谷 稔 (高10・旭匠会)
監事	江畑 鎮男 (高6・銚匠会) 石井 國夫 (高14・横匠会) 澤田 晃 (高15・多古) 土岐 四郎 (高11・京葉) 伊藤 清 (高10・東京) 伊藤 鋭之 (高16・干潟) 伊東 和夫 (高12・野栄) 水野 征夫 (高14・飯岡) 伊藤 雅美 (高6・光) 斉藤 忠男 (高15・海上) 石毛 忠 (高9・四街道)
総務部長	栗田 壮一 (高17)
文化部長	鈴木 勝彦 (高18)
体育部長	米本 雅男 (高10)
事務局長	鶴野 航三 (高15)
會計	岩瀬 道治 (高24校内) 加瀬 茂 (高27校内)
会報編集長	林 健一 (高34校内)
顧問	馬淵 英夫 (高10) 宇井 美樹 (高19・学校長) 中村 道代 (全日制教頭) 猿渡 末治 (高26・全日制教頭) 石原 修 (定時制教頭) 志賀 正義 (高22・事務長) 根本 勝弘 (高14・前会長)
参与	根本 勝弘 (高14・前会長)

支部推薦の副会長は、支部で変更された時点で変更になります。○印新任、他は留任。

(従来の方々に加え)

## 平成19年度 一般会計予算書

自 平成19年4月 1日  
至 平成20年3月31日

## 1. 収入の部

科目	予算額	前年度予算	増減	備考
会費	6,000,000	4,000,000	2,000,000	
入会金	1,002,000	1,032,000	30,000	全319+定15
繰越金	6,831,854	6,399,621	432,233	
寄付金	200,000	600,000	400,000	
雑収入	100,000	20,000	80,000	銀行利子,その他
計	14,133,854	12,051,621	2,082,233	

## 2. 支出の部

科目	予算額	前年度予算	増減	備考
会議費	750,000	750,000	0	総務,文化,幹事会,支部
事務費	650,000	650,000	0	事務通信費,印刷費
旅費	70,000	70,000	0	会務旅費
慶弔費	300,000	300,000	0	役員,母校職員等
振込手数料	70,000	50,000	20,000	会費振込手数料
会報発行費	6,500,000	6,500,000	0	印刷費,発送費,編集会議
補助費	1,200,000	1,200,000	0	部活動補助,文化祭補助,教育活動の補助
HP管理費	650,000	0	650,000	ホームページの管理
積立金	3,500,000	2,500,000	1,000,000	
予備費	443,854	31,621	412,233	
計	14,133,854	12,051,621	2,082,233	

## 会員名簿発行に関して

同窓会名簿の発行の時期が近づいて参りました。五年に一度の発行ですので、今回は平成21年になります。その準備が着々と進みつつあります。

名簿発行の度ごとに本校同窓会とは無関係な民間業者からの名簿購入案内がお手元に届き、家人が申し込んでしまったとか、間違っして購入してしまったとかの苦情が多く事務局に寄せられます。

それらは職業別などと称し、本会の名簿と比較すると、かなり高額の場合が多いようです。

今回もそうしたことが予想されますので、惑わされることのないよう、十分ご注意をお願いします。

本校同窓会としては、同窓会長名の記載のある案内が正式のものです。

## 平成18年度 一般会計決算書

自 平成18年4月 1日  
至 平成19年3月31日

## 1. 収入の部

科目	予算額	決算額	増減	備考
会費	4,000,000	6,713,000	2,713,000	
入会金	1,032,000	1,029,000	3,000	全322+定21
繰越金	6,339,621	6,399,621		
寄付金	600,000	164,000	436,000	高3回萩原庄一様より10万円他
雑収入	20,000	1,221,480	1,201,480	定期預金満期利子
計	12,051,621	15,527,101	3,475,480	

## 2. 支出の部

科目	予算額	決算額	増減	備考
会議費	750,000	649,495	100,505	総務,文化,幹事会,支部
事務費	650,000	334,689	315,311	事務通信費,印刷費
旅費	70,000	46,000	24,000	会務旅費
慶弔費	300,000	115,9210	184,079	役員,母校職員等
振込手数料	50,000	59,810	9,810	会費振込手数料
会報発行費	6,500,000	6,299,187	200,813	印刷費,発送費,編集会議
補助費	1,200,000	1,190,145	9,855	部活動補助,文化祭補助,教育活動の補助
特別事業費	0	0	0	
積立金	2,500,000	0	2,500,000	
予備費	31,621	0	31,621	
計	12,051,621	8,695,247	3,356,374	

## 3. 収入 - 支出対照表

収入額	支出額	差引残高
15,527,101	8,695,247	6,831,854

振替口座	4,699
郵便口座	6,738,988
手元現金	88,167

前年度総資産 6,831,854

前年度総資産 38,899,621 積立金 32,500,000

総資産 39,331,854

総資産の増減 432,233

註1. 会費収入が予算額の約1.7倍の増収でした。

註2. 積立金のうち、満期を迎えたものがあり、100万円超の利子がつきました。

### 法人化された 国立大学の現状



国立大学法人(以下大学)

は、国から運営費交付金を受けて大学を運営する。運営費交付金には毎年1%減額される仕組み(効率化)が導入された。文科省は効率化によって生じる資金を大学に競争的に再配分している。競争的資金は毎年約一〇億円増え、その再配分は大学間格差の拡大を招く。各大学は、安定した収入である運営費交付金の漸減に対して、経営努力(人件費の削減など)を強いられる。

ている。定年退職教員の不補充による人件費の削減は若い人材の採用を困難にする大きな問題を惹起している。

国立大学の授業料が高水準になり、首都圏や近畿圏の学生は、経済的に有利な通学圏内の有力私立大学を選択する傾向が強まった。この結果、地方国立大学の志願倍率が低下した。国立大学に依存する理工系の人材育成は岐路に立たされている。

推薦入試やAO入試は、

当初の理念とは違って、学生確保の青田刈りとして用いられている。

これらの入学定員枠の拡大は、高校教育に大きな影響を与え、確実に入学生の学力レベルを低下させている。

近年、有力国立大学は大学院大学になり、大学院学生定員を大幅に増やした。その結果、従来にも増して地方国立大学や私立大学から旧帝大系大学の大学院に学生が流れるようになった。旧帝大系大学院は入学生のレベル低下、地

方国立大学は定員確保に悩むようになった。

運営費交付金の効率化、大学教員の職制の変更による助手の実質的な廃止は、若い人材が教育研究職に就くことを難しくしている。博士課程が不人気になった原因の一つである。理工系大学院に優秀な若者を集める制度が我が国の将来に欠かせない。

## 記念講演

# 人間が生存できる地球環境は どのように形成されたか

岡山大学理学部長 加瀬克雄(高15)

### 地表環境の成立

四十六億年前に火の玉として誕生した地球は、三十八億年前には冷えて地表に液体の水が存在したことを示す証拠がある。地球創成期(四十六億〜四十億年前)の気象には、現在の一万倍以上である一〇気圧程度の二酸化炭素が含まれていたと推定されている。この膨大な量の二酸化炭素の一

部は、我々が良く知っているように、動植物を構成しているが、その大部分は地中に埋もれているのである。実は、

膨大な推定量は、現在地中に含まれている循環炭素(意味が曖昧ですが)を全て大気中に戻すことよって得られる値なのである。石灰や石油などの化石炭素、セメント原料である石灰岩中の炭素などは地中に埋もれている循環炭素の一部である。

地球創成期から約二十五億年前までの大気中には殆ど遊離酸素はなかった。二十五億年前からバクテリアの働きで酸素が大気中に放出され始めたが、当初の五億年間は、放出された酸素と海水中に溶けていた鉄が結びつき、大気中に急激に酸素がふえることが阻止された。沈殿した鉄鉱物の量は莫大であり、それは重要な鉄資源として世界各地で採掘されている。

二十億年以降、放出された酸素に対応する鉄がなくなり、大気中に酸素が蓄積し始めた。これ以降、酸素呼吸を行う生物が発生し進化した。

酸素の蓄積はやがてオゾン層を形成して紫外線が地表へ到達することを防御した。その結果、生物が陸上に進出したのである。今から四〜五億年前のことである。それまでの地表には草木も全くない無生物状態であったに違いない。紫外線が生物の大敵であることは現在でも変わりがない。

地球環境はゆっくりとした速度で進化した。産業革命以降の環境変化の速度は極めて速く、人類はそれを十分認知していない。人類活動によって一〇〇年に〇・一度気温が上昇する変化は、一〇万年経てば、海水が沸騰する温度になる。現代の生物種の絶滅率は過去のどの時代よりも際立って高い。地球が営々として築いた地表環境は瞬間的に破壊されつつある。持続可能な循環型社会が提唱される所以である。

# 支部総会報告

## 【飯岡支部】

五月二十六日(土)午後三時より玉乃浦食堂にて本部根本会長、母校猿渡教頭出席のもと開催。本年度役員改選はなく、昨年に引き続き水野征夫氏(高14)が支部長を務めることとなった。

事業計画書として母校文化祭のバザーへの出品、会員への慶弔、飯岡地区在住の十九年度本校卒業生に対し、記念品の贈呈を行う等の事業活動を柱とする活動方針を決定し終了した。

## 【横芝支部】

六月二日(土)午前十一時から「あずま庵」を会場に総会を開催した。母校宇井校長、本部根本会長、岩瀬事務局長に出席いただき、二十五名の会員の参加のもと本年度の議事の決定をみた。役員改選では、吉川保男支部長(高9)から石井國夫新支部長(高14)への引き継ぎが行われた。総会終了後、越川浩一氏(高5)により「横芝よもやま話」と題した講演があり、盛会裡に

終了した。

## 【光支部】

六月二十四日(日)横芝光町民館において定期総会を行う。五十名余りの会員の参加のもと、本年度の議事の決定をみた。会長には引き続き、伊藤雅美氏を選出。終了後、懇親会が行われ、和やかな雰囲気でも弾み、盛会裡に終わることができた。

## 【東京支部】

四月十四日(土)匝東会第九回総会をアルカディア市ヶ谷にて96名の出席を得て盛大に開催した。



母校より宇井校長、金杉元校長、山崎前校長、本部より根本同窓会長、岩瀬事務局長の出席を頂いた。

来賓の挨拶の後、引き続き会長を務める伊藤清会長より、昨年初めて開催した「ふるさと、母校を歩こう会」が成功裡に終了した旨の報告があり、本年は京葉支部と共催で十一月十一日(日)銚子を歩こう会」の提案がありました。

終了後、昨年度本部の総会で好評だった高橋久明氏(高14)より「ブラジルに木を植える」という講演をして頂いた。

懇親会では、母校の思い出を語り合い、更に「お楽しみ抽選会」を開催し、母校の校歌を全員で斉唱し、なごやかなうちに散会した。

第十回は、四月十二日(土)予定している。

事務局 藤井 治(高13)

## 【四街道支部】

七月十五日(日)午前十時から四街道文化センターにおいて、四街道支部同窓会第九回総会が開催された。

本部から古谷健一同窓会長(高15)が出席、支部会員三

十名参加のもとに行われた。当日は台風四号の接近により、交通事情等最悪となり、母校の宇井美樹校長、事務局岩瀬道治氏、山崎忠義前校長及び支部の会員七名は残念ながら参加出来なかった。

総会に先立ち、講演会を開催し、石毛忠防衛大学名誉教授が、平成十八年二月から七月まで北京日本学研究センターに赴任した際、中国の日本研究者、大学院生達と語り合う中で、感じたことを「中国「

雑感」と題して、講演していただいた。現代中国の政治的、社会的秩序の混乱と古錦濤政権による孔子と儒教の再評価と普及(毛沢東は全面的に否定した)との間に認められる

内面的必然性についての指摘等出席者全員が自然に引き込まれてしまうような素晴らしい内容の講演であった。

総会では、支部の活動報告並びに新年度事業計画の報告等が承認され、本年度の役員として、顧問に鈴木不二夫氏、会長に石毛忠氏、会計監査に石和田功氏が選出された。

総会後は懇親会に移り、盛会の内に終了した。

工藤 博孝(高11)

## 【千漉支部】

八月十九日(日)嘉儀屋にて、母校猿渡教頭、本部古谷会長、事務局より井上教諭の出席のもと開催。伊藤明文(高15)支部長から伊藤鋭之(高16)新支部長へ引き継ぎが行われ、盛会裡に終了した。

## 【旭支部】

旭会総会は、八月二十五日(土)旭楼を会場にして、来賓に伊藤忠良旭市長、本部より古谷会長、母校より宇井校長、岩瀬事務局長をお迎えし開催された。総会終了後、旭中央病院付属看護専門学校副校長の渡邊千恵子先生(高18)の「大病院における手作りの看護教育」のご講演をいただき、盛会の内に終了した。

加藤 文雄(高15)

## 【海上支部】

八月二十五日(土)傳兵衛にて開催。母校より中村教頭、本部より岩瀬事務局長が出席した。昨年に引き続き斉藤忠男氏(高15)の支部長留任が決定した。事業計画として、例年どおり、海上公民館への図書の寄贈等が決定され、盛会裡に終了した。

【野栄支部】

八月二十六日(日)のさか望洋荘にて、母校宇井校長、本部山崎会長代理出席のもと開催。山崎幸雄(高11)支部長から伊東和夫(高12)新支部長へ引き継ぎが行われ、盛會裡に終了した。

【多古支部】

平成十九年度多古支部の総会は、九月十六日多古町内の「あぶらや」で開催されました。

昨年度の総会で開催は原則として七月の第一日曜日と決定したのですが、止むを得ない事情により初年度ではありませんが役員会を八月下旬、総会は九月中旬となつてしまいました。本部からは古谷会長、母校から猿渡教頭、岩瀬事務局長のご臨席を賜り、参加者二十名によるささやかながらも楽しい総会となりました。会務報告と役員改選が行われ、新会長に第15回卒業の澤田晃氏、副会長には土屋睦子氏が就任し、これからの発展を期待して議事は滞りなく済みしました。ところで、私は旅先で旅行

客から「どちらからお越しですか」と聞かれても千葉県が多古町ですと答えたことがありません。知らない方は鮎町と思われのが癪で、「成田空港から東へ十キロほど行った田舎町です」と答えています。

多古という地名は私の知る限りでは島根県松江市の旧島根町にあります。私たちの多古という地名については二通りの説がありまして、町の中央を北から南へ流れる栗山川の周囲が昔は湿地帯で沼が沢山あったので最初は「多湖」そのうち「多胡」となり、今の「多古」となったという説、これは未だに栗山川周辺の水田の下から大木をくりぬいた丸木船が発掘されることから推測されます。

もうひとつの説は「多胡」から始まったというもので、昔外国人が多数住んでいたことからその名が付いたということ、胡とはもともと中国から見た西域の人たちのことを胡人と言ったように、多分朝鮮半島や中国からの渡来人が農業や機械の技術を伝えるため居住していたものと思われ

今でも町内には「秦」という姓の方がおり、私が子供の頃は染物屋という屋号で洗いや張りなどの業務をやつておりましたので、この説も捨てがたいと思つております。

中13回

昭和十六年三月卒の私共

は、戦前に生まれ、西ヶ城なる鶯の校舎で五年学び、戦中は、酷暑の大陸に、はたまた、酷暑炎熱の南溟の孤島に、尊い命を失つた者もあり、戦後は、焼け野原と化した祖国の復興に献身して、今、平和な楽土に暮らしている。その八十有余年の波瀾万丈、天国と地獄の世界を歩んできた人達である。

本年は卒業後六十六年の年でもあり、松岸の根本君の音頭取りで準備が進められ、今までに八日市場地区では数回やつているし、母校も数回訪ねているので、今回は、五月十五日、太平洋を一望できる

同期の集い

そらく一番小規模の支部だと思ひます。今後は会長を今までのように任期一年とし、本部の会長に合せて卒業年度により改選しますので、若返りは無理ですが参加者を少しずつ増やす計画であります。

犬吠の暁鶏館にしよう、ということに決まつた。

卒業時百四十余人が、現在



写真 前列右から 石井、齊藤、大関、熱田、根本、齊藤、後列 中西、加瀬、宮本、羽生、土屋、成川

連絡可能者四十人、出席者十人となった。私は、途中で合流した東京からの中西君、佐原の羽生君らと、今話題の銚子電鉄に乗り、犬吠駅では、テレビで有名な又れせんべいを食べ、三時過ぎ宿についた。

夕食まで時間の余裕はたっぷりあるので、雄大な太平洋を眺めながらユツクリと温泉に浸かり、浴衣がけで、ビール片手に談笑の輪となつた。

八十代のチーさんも、十代の鶯の葉の学舎に若返り、談論風発、さらに、戦中戦後の苦労話や想い出は尽きることなく、三時間の夕食も、アツという間に過ぎ、それぞれの部屋にまで引き継がれていった。飲む程に意気盛んではあるが、隠せないシワには八十余年余の貴重な歴史が刻まれている。

「それでは、四年後の八十八歳の米寿には、また会おう」と約して散会した。果たして、その時は、何人になるだろうか。と胸の奥に思いながら、昔と変わらぬ総武線に揺られて帰路についた。

(中13 熱田 禧房)

### 中16・充緑会

平成十九年五月十三日、市内梅田屋で中学十六回の集いを催した。この回のいろいろの情報の収集は鳥飼顕照君が中心となり、各地の責任者が補助をしている。

集会の当番は持ち回りで、今年は地元八日市場ということで、江波戸三好君が進行にあたった。東京はじめ各地から二十五名の参加で、会員も傘寿を越して、参加するにも大変努力を要するようです。今年が始めて第一回生中村



鎮亥先生をお招きし、卓話をお願いした。母校の校長も勤められた先生は九十六歳にして極めてお元気で、長時間のお話も戦前、戦後に亘りまことに興味深く感嘆の至りでした。長寿の秘訣は一日一粒の梅干しにありとのお話にも頷くばかりでした。

会の終わりの清興に池田信男君が、正装をして能の舞を舞ってくださいました。最後に林正夫君のリードで匝中校歌を合唱して会を閉じました。

(中16 鈴木 精)

### 中18・いつぱち雄飛会

今年で第八回を迎えた雄飛会は、定例会場である国民宿舍サンライズ九十九里において、六月十四日、十五日開催した。当初、二十二名の参加を予定していたが、体調不良や急用で最終的には家族を含め二十名が参加した。

顧みると第一回を平成十一年五月十八名が参加して、恩師太田先生の米寿と我々の古希を祝い、併せて「激動の記録」の発刊を記念開催、爾来今日に至っている。この間既に故人となられた恩師を初

め、級友のご冥福をお祈りするものである。

懇親会は十八時に始まり冒頭林義夫君からの祝電と、有志からの芳志を「披露のあと、土手恒司君の発声で乾杯懇談に入った。例年になく酒量も進み、一同益々意気軒昂、カラオケ、軍歌、民謡等で暫し時を忘れて歓談。最後に校歌を声高らかに斉唱、賑やかな二時間余りであった。

今回特記することは平山昭君(旧姓葉計)が、中学四年生の昭和十九年七月甲種予科

練(十四期)に志願して軍務に励む中、昭和二十年七月特攻隊員となり、「剣(つるぎ)作戦」に参加したが、終戦により中止となった。この作戦は秘密漏洩を最大限に防止するため、全ての命令は全く残っていないかったという。戦後に元隊員が防衛大学の図書室で偶然発見、当時の上官の証言によつて初めて明らかにされた。この作戦は全海軍はおろか陸軍を含めた最後の一大作戦で、是非とも知っておいてほしいと報告があった。作戦の概要は、連日に渡り本土空襲に飛来するB29基地

(主にサイパン、テニアンで約二〇〇機)を重点的に攻撃

壊滅をはかり、一日でも本土決戦を延期させる目的で、特別攻撃隊を呉と横須賀で編成する。各攻撃隊の編成は彩雲偵察機二機、銀河攻撃機二〇機、(20ミリ機関砲門特別装備)、一式陸攻二〇機(武装隊員十五人、二十人搭乗)で参加隊員五百人による。戦術は彩雲を先行偵察に充て、続いて銀河が発進し敵基地に並んでいるB29を20ミリ機関砲で掃射攻撃し、敵基地が混乱する間隙を縫って陸攻機を胴体着陸させて、突入隊員によりB29を各個に爆破させ、壊滅をはかる。なお、隊員は玉砕覚悟で臨むものとしていた。攻撃の第一波(呉)は八月十九日夜間木更津基地を出撃する。攻撃の第二波(横須賀)は三日以内とするに決定。横須賀隊(一〇五隊加賀部隊又は鵬部隊と呼ぶ)には、平山、関本、桐谷(17回)の三人が編入、日夜訓練に励んでいた。出撃日の決定により急遽千歳基地に向けて集結の途中で終戦を知った。そのため行き先を三沢基地に変更して

自ら武装を解いたが、一週間後は厚木基地の保安要員となり、進駐してくる米軍機を複雑な思いで迎えたことだという。「剣作戦」での重大な使命と責任が若き十五、六才の志願兵の双肩にかかっていたわけ、任務完遂のため身を鴻毛の軽きに比せざるを得なかつたという。どうかこの事実を大きな名誉とまた誇りとして、是非とも家族やそして後世に伝えてもらいたいと結んでいる。我々雄飛会四十余名は全員が復員して同慶の至りであったが、終戦が数日延びることで若き防人にも犠牲者が出ていたのである。恩師が生前に青春の日々を回想して歌ってくれた詩を思い出した。

「生きてよかつたきみらに七十古希近し日々の健康ゆめおこたるな」

お陰さまで来年は傘寿を迎えるが、第九回を六月上旬に開催を予定している。八十路に向かう健康管理等について語る夕べにしたいと思つていてある。大勢の参加を願うものである。

(中18 角田 喜男)

### 匠瑳21・1同期会

平成十九年五月二十七日、日曜日の午後四時、横芝駅前の「富士屋」を会場に、十五回目の同期会が開催された。出席者は三十二名、過去最小の人数である。

記念写真もこじんまりして少々さみしいものになる。

この一年の物故者は、伊藤和己さん、海宝文雄さんの二人だが、どちらも会の常連であつただけに、故人の冥福を祈る黙祷も感慨無量である。

人数は減つても一年振りの再会とて、宴会は賑やかに盛り上がる。今年は大部分の人が満で喜寿を迎えるにあつて、戦中戦後の激動と困難な時代をよくぞ生きてこられたものと、振り返つての話題も多く交わさる。また、健康に関する情報交換も活発で、欠席者の近況があれこれ話題になった。

宴半ばからは、幹事の進行でそれぞれ得意の喉を披露する。かくて約二時間はあつと言つ間に過ぎてしまい午後六時、電車の時間もあつて、次の会場地区の挨拶のあと閉会となる。



写真 前列右から

- 萩原 恒夫 鈴木幸之助
- 加瀬 康夫 大田政太郎
- 大木 栄一 林 伸夫
- 向後 忠 山本 秀夫
- 神原 健 古川 恒蔵
- 二列目右から
- 石井 守 萩原 勇美
- 川島 六郎 内田 裕雄
- 角田 利夫 福岡 正夫
- 大和 義則 鈴木 八郎
- 石橋 清 椎名 素夫
- 大関 正
- 三列目右から
- 高橋 一男 鈴木 通夫
- 渡辺 翼一 宇井野和重
- 土屋 壽 高梨 育雄
- 宮嶋 弘平 杉田 利夫
- 並木 達雄 土屋 敬徳
- 飯島崇智

今回は、旭地区が当番で、平成二十年五月二十五日(第四日曜日)に開催するので、今から予定に入れておき、是非参加して欲しい。

平成十八年秋の叙勲で、宇井恵治さんが「旭日双光章」を、同十九年春の危険業務従事者叙勲で、菊地俊勝さんが「瑞宝双光章」をそれぞれ受賞された。宇井さんは地域医療活動、菊地さんは警察功勞での受賞である。慶祝！毎年同期会の資料と集合写真を欠席者にも届けている。

今年も八十九名に送つたところ、十人から丁寧な礼状やら電話を頂いた。嬉しかった

が今回は体調と日程を整え、ご本人が顔を見せてくれることを切に願っています。

(高1 大関 正)

【追伸】六月十五日、林利さんの訃報が届いた。四年前までの常連であつたが体調を崩し、最近入院されたと聞き心配していたが、謹んで御冥福をお祈りします。

### 高9・同窓会

私達高九回生は、匠瑳高校

を卒業してから、平成十九年三月で五十年になりました。これを記念して、去る四月二十二日(日)に、旭市の黄鶴で、「高九回生卒業五十周年同窓会」を開催しました。

当日は、女性二十名を含む六十五名の方が出席、最初に全員で記念撮影を行つてから懇親会場に移り、小川又次君の司会で鶴澤恂一君が開会の言葉、幹事代表の私、内藤勇の挨拶の後、在校時の生徒会長平山雅巳君、会場地元の伊東諒君の挨拶と続き、平成十三年度本校同窓会長の職を勤めた江波戸寛君の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。

次に、各クラス代表による三分間スピーチがあり、会場は和やかな雰囲気包まれる中に会が進行しました。

今回の特別イベントとして旭市海上地区のお囃子連による祭囃子の演奏が行われ、迫力ある演奏に全員が聞き惚れているうち、銚子大漁節の演奏になり、お囃子連のリーダーに勧められて、主席者の中から大勢の方が踊りに参加して会場は賑やかに盛り上がりました。

それから、カラオケ歌謡会に移り、最後に母校の新旧校歌を全員で合唱し、武田光春君の閉会の言葉で再会を約し、思い出多い楽しい一時が終わりました。

(高9 内藤 勇)

### 高11・同窓会

平成十九年七月十六、七日、犬吠埼京成ホテルにおいてクラス会を開催。



恩師、押田和夫先生にも、ご高齢にもかかわらずご出席をいただき、かつ、心あたたまるご挨拶をいただき、参加者二十余名、ひさしぶりに高

校時代の雰囲気に浸ることが出来、歓談つきず深夜におよびました。

翌、十七日は、地球の丸く見える丘展望館、ウオッセ展望台、ヤマサ醤油工場見学、名残惜しい気持ちいっぱい、京成ホテルにもどり、昼食、話に花が咲きました。

次回は、近隣の人たちで押田先生宅で筍掘りをし、パーベキューなども考えております。

最後に、押田先生はじめ参加していただきました皆様方、残念ながら参加できなかった皆様方のますますのご多幸を祈念致します。

宮川 光陽(高11)

匠弓有志会

弓が取り持つ縁

青春時代を過ごした匠磋高等学校を卒業してから、はや五十年が過ぎようとしています。高校時代は演劇部に籍を置いたり、美術部に籍をおいたり、また弓道部にも籍をおいて頑張っておりまして。

時が経つにつれて昔の事と忘れかけていましたが、三年前一通の手紙で弓道部の恩師



を囲んでの会合、匠弓有志会がある事を知り、今まで夢中で生きてきた私の心の中に懐古の気持ちが湧いて参加することにしました。初めは年代が離れていてお逢いしても誰が誰だかさっぱり分からず戸惑いましたが、年代の近い方は思い出すのにさほど時間がかかりませんでした。二回、三回と参加してゆくうちに年齢差は関係なく親しみを感じるようになりまして。今回(四回目)は幹事を仰せ付かり大役だと思いましたが、皆さんに大いに楽しんで頂くことと精一杯頑張りました。楽し

い思い出になって戴いたら嬉しいです。加齢に伴い身体の中あちこちが悪くなってゆく中で、恩師の林初男先生は高齢にも拘わらずシャキツとしていて声も張りがあつて歌もお上手で感心いたしました。やはり、弓道を究めていらつしやる所為ではないかと思ひました。

私たちもこれからの余生の過ごし方を考えて、自分自身の身体の状態に合わせたいろいろな方法で健康を維持できるように努力し、進んで人と交わる場所へ出向き、身体と脳を鍛えて、みじめな老人にならないように心がけたいです。誰の人生の時間にも限りがあり、自らに与えられた時間をどう過ごすのか?、どうせ生きるならば健康に気をつけ、真から満足して幸福だったと思える余生を過ごしたいものです。

(高10 濱本差彦子)

ゴルフ大会

豪雨ブレイの中にも「光」が...

五月二十五日、山武グリーンにて、同窓会十一回のゴルフ大会を開催。天候は時間が

経つにつれ悪くなるという。受付はキャンセルによる参加者減と、組み合わせ変更による不安がよぎる。トップ組スタート時にはすでに雨強し。何とか最終組もスタートすることができましたが、時すでに豪雨、悪くなる一方の天候に下した決断は「九ホールプレー競技」プレーヤーには不満があつた事とは思いますが、健康面も考え、又、同日市原で行われていた女子プロ大会が、サスペンデットになつた事を思うと、賢明な処置だつたかな?と自己分析しております。

見出しに「光」と書きましたが、この大会が同窓会でなかつたら欠席者は数多くあつた事でしょう。当日数人の欠席者で済んだという事は、同窓会の意識や絆が強く、又、級友に会える楽しみ、幹事に対する優しい思いやりがあつたからではないでしょうか。

その極めつけは、受付まで足を運び、プレーはしないのに参加費を納めてくれる先輩が多数あつた事でした。そのお心遣いのお陰で赤字に陥ることなく、逆に母校運動部への

助成金がプレーヤー一七二名で十八万円贈呈するという珍現象が起きたことです。正に同窓会の「光」が放たれた瞬間に立ちあつた感じがいたしました。

総合の部

- 優勝 嶋田 新治(高5)
- 二位 桑田 平(高14)
- 三位 野々山 毅(高12)

シニアの部

- 優勝 嶋田 新治(高5)
- 二位 渋谷 正(高7)
- 三位 木原 孝明(高7)

レディースの部

- 優勝 村上 玲子(高7)
  - 二位 油井 國子(高14)
  - 三位 和井内行子(高10)
- 本大会開催に際し、関係各位のご協力深く感謝申し上げます。

私共幹事の徳の無さで迷惑をおかけした事痛感しております。参加下された皆様も心残りがありでしょう。次回大会はプレーオフの積もりで大いに楽しみ参加しましょう。

十五回の皆様、宜しくお願致します。(高14 体育部会 太田 安規)

### 匠中14・親睦旅行

六月十日より二泊三日で沖繩に飛んだ。第一回から始まって今回の参加は最低の八名であった。

先ず島内一の古社波上宮に正式参拝し大いに歓待を受け、撤下品として名産の泡盛一升と、各自におみやげの小瓶を一本ずつ頂いた。

泡盛のおいしいこと、二晩めにはすっかり飲み終わつた。島内はジャンボタクシーを貸し切つてあちこち回り、運転士の適切な案内と解説に楽しく過ごすことができた。毎回参加の西川哲君夫妻の参加がなくさびしかった。

十名に満たなかつたので、今回をもって空中分解かとみんなにはかつたら、なあと、第一回が伊勢神宮の参拝から始まつたので、もう一度神宮に参拝してからも良からうということになり、来年は神宮の正式参拝と、お神楽の奉納を予定して、目下新幹線利用か、バスで往復しようか検討中である。

(中14 品村 晃祥)

### 故氏家次郎先生の遺作の保存保管について

さふさ第35号でご案内いたしました氏家先生の遺作を保存保管する件につきまして、皆様にご報告申し上げます。

ご承知のように氏家先生は昭和三年から三十五年まで匠磋高校に美術教諭として勤められました。その後この地域を中心に芸術文化面での発展に無私の立場で寄与されました。また、先生の描かれた油絵作品は千葉県立美術館をはじめ、匠磋市役所、八日市場公民館、干潟役場、匠磋高校など多くの公共の場で収



郊外の家(パリ) M 50号 1964 油彩

蔵、展示されております。その先生の遺作が、現在は無人となくなつてしまつたアトリエに大作が17点、十号前後の作品が約50点残されております。

さらに先生の使われたイーゼルや絵筆、手作りの用具もありません。これらは単に芸術作品としてだけでなく、条件を整えば文化的な資料としても価値のあるものです。このたび氏家先生にゆかりの近隣在住者で、「先生の遺作を保存する会」準備会を発足させ、ご遺族の意向を確認し、出来る

範囲での可能性を考え、多方面に相談してみました。その結果についてここに報告いたします。なお準備の過程では、身の丈以上の計画も含まれ、助言協力をお願いした方々には相談した内容と相違する点もあることと思ひます。礼を欠く結果ともなりますこと、ご容赦ください。

#### 報告1

アトリエに残されている作品及び関係資料等の保存

保管について、「先生の遺作を保存する会」準備会にその権限をご遺族より任せていただいた。本年五月に、ご遺族と「保存する会」準備会の間で文書を作成し、その内容について取り決めをしてあります。

その中で、保管場所については宇井校長先生の許可もいただき、匠磋高校にお預りくださいました。無人のアトリエに放置しておけば、時間の経過とともに作品は朽ちてしまいます。とりあえずの緊急避難的処置として、保管をお願いしました。現時点では、匠磋高校にも多くの作品をまとめて展示できる場所は確保されておりません。しかし将来的に適切な展示場所が匠磋高校内やこの地域に実現された場合、関係者で協議の上より良いかたちに提案できることを願っています。

#### 報告2

「先生の遺作を保存する会」準備会の趣旨の第一義は、先生の作品を最低でもまとめて保存保管しておくことと出発しました。報告1のように、その点については達成されま

した。しかし助言協力をお願いし相談する中では、篤志寄付を募り予算立てを必要とする内容も話し合われました。作品の修復や額装、作品の整理やデータ作成の費用、収納スペースの確保や展示場の設置費用等など。その関連では、体制が整つたならば寄付を呼びかけるために「賛同呼びかけ人」としてお名前をいただけるよう依頼した方たちもいらつしやいます。今回は事務局の力不足もあり相談の結果、篤志寄付を募つての大きな運動は見合わせることにしました。ここにあらためて、趣旨にご理解をいただき「賛同呼びかけ人」としてご協力の約束をいただいた方々にお詫びとお礼を申し上げます。

以上報告といたしますが、関連して多くの方々にご助言いただきました。ご協力ありがとうございました。ありがとうございました。

#### 準備会事務局

- 綿貫ひろ子(高8)
- 勝股 和子(高9)
- 菊間 浩亮(定昼5)
- 鎌形 規男(高20)
- 中川 繁明(高24)

# HP運営委員会より

匝瑳高等学校創立90周年に向け、様々に変革する教育環境の中で在校生も勉学・スポーツ等厳しい競争の中、健闘の毎日です。

同窓会は歴代役員と多くの同窓生のご尽力により、他校に負けない組織を堅持し続け、とりわけ会員の情報・消息を伝える年2回発行の「同窓さふさ」は全国各地にちらばる会員にとって、青春時代を過ごした母校への郷愁もあり、世代を越えて同窓生の心のよりどころとなっています。

しかし、年2回発行・全会員配布は同窓会財政にも大きな影響を与え始めており、種々検討せねばならない段階になってきました。そこで今回、時代の変化に伴い、多くの会員の声にも応え、同窓会専用のホームページを開設する運びとなりました。

アドレスは <http://www.dosokai.ne.jp/sosako/> です。

現在、会員も世代が広がっています。しばらく「同窓さふさ」の発行を続けながらホームページの活用も大いに進め、同窓会の広報のより良きあり方を求めて努力していきたいと思えます。

会員の皆様のこのホームページは、母校の現在の様子や同窓会活動のご案内、また同窓生の交流の場として、お役に立つ事でしょう。掲示板等、各種情報発信のコーナーを設けておりますので、積極的にご活用ください。

また、皆様にホームページの「バナー広告掲載」のご協力をお願いすることにより、このサイトの管理・運営経費を賄いたいと考えております。どうぞこの旨ご理解いただき、「バナー広告掲載」にご協力賜りますようお願い申し上げます。

## お申し込み及びお問い合わせは

千葉県匝瑳高等学校同窓会事務局 岩瀬 道治

千葉県匝瑳市八日市場イー1630

電話 0479 - 72 - 1541

または e-mail で

[sosako@dosokai.ne.jp](mailto:sosako@dosokai.ne.jp) (担当田中) までお願いします。

## ホームページの内容紹介

### 同窓会コーナー

**活躍中の同窓生** 母校を卒業して各分野でご活躍している方々を紹介しています。

**同窓生のホームページ** 会員の方々の個人のホームページを紹介しています。

**同窓生のお店** 会員の方々で自営・経営されている会社・店舗等のホームページを紹介しています。

**同期会のご案内** 同期会・クラス会・クラブOB会の開催案内のページです。

**同期会報告** 同期会・クラス会・クラブOB会の報告ページです。

**部活動のページ** クラブの活動を紹介しています。

**恩師は今...** お世話になった先生方のご在職当時の思い出や、現在の様子を紹介しています。

**交流のひろば** 同窓生の方々の交流の場として設けられたものです。各種グループ・同好会・集まりのご案内・自己紹介等自由に書き込みできるページです。

# 校史 探訪 匠中応援歌と稲葉先生

われわれ十四回生が入学した昭和十二年には、匠中応援歌はまだなかった。

歌われていたのは剣道の福岡明先生が、秋田県立大館中学校（現大館鳳鳴高校）の剣道教師をしていた時の同校の剣道部の応援歌を、匠中に転勤になられた時に持ち帰り、一部を匠中に適合するように作りかえた「風蕭々と松を吹き、昔を偲ぶ西城趾……」のあの歌である。

その後第二代校長田中勝夫先生が赴任され、毎月一回の全校マラソンを催すようになった。その頃国語・漢文を教えておられた稲葉隣作先生が感激のあまり、作詞して、中央廊下といって、玄関を入って北側の新館（木造二階建の特別教室棟）に至る間の通路があった。左側が便所、右側は小使室と宿直室があったので、昼なお暗いような渡り廊下であった。その左の壁に大黒板が下げてあり、これは専ら先生方の伝達事項、事務室からは、月末になって毎月

謝未納者の名前が書かれ、先生方は上級学校進学者の名前と校名などを書いていた。

ところがある日突然、大黒板いっぱい、応援歌が白墨の字も躍るように書かれていた。作者の署名はなかったが稲葉隣作先生であることはすぐにわかった。

これが「青春輝く西ヶ丘」の応援歌と「ああ東海の波万里……」の匠中マラソン歌でどちらが先であったかは今はいおこせない。応援歌は「当時よく歌われていた婦人従軍歌の乗松昭博先生の作曲で、われわれは直接先生の御指導でこの歌を歌った。又匠中マラソン歌は杉山長谷夫先生の作曲で、これは直接教わった記憶はない。いずれにしても両方とも血湧き肉躍る思いで何十回も歌ったと思う。

動学科最後まで」の大目標をかかげ、授業を欠くことは絶対にしなかった。マラソンは六時間の授業の終わった放課後夜行軍は土曜日の授業を四時間終って一旦下校し、生徒は弁当（夜食であつたが、朝食であつたかは忘れた）の握り飯を持って夕暮れ時に登校して夜の八時頃静かに学校を出発した。途中休憩の時に道ばたに眠りこんだり、歩き出しても寝ぼけ眼で歩くものだから隣の生徒の肩にぶつかり合ったりしながら歩き続けた。夜が明けると軍歌などを歌いながら学校に帰ってきた。大いに疲れたがよき思い出である。

全校マラソンも夜行軍も校長が率先して参加されたので先生方も、事務職員も全員が参加され、生徒も随分と力付けられたように思っている。

今は当時を知る先生方は殆ど亡くなられ、埼玉県在住の内田先生（物理化学担当）お一人ぐらいであろう。

また、田中校長は全校マラソンのみならず、毎学期の終わりに夜行軍という行事があり、二年生は香取神宮とか、上級生は銚子方面などへと出かけたが、校長は「共々に運

## 同窓生 紹介される

毎日新聞（千葉版）  
「母校とわたし」

九月十三日  
地井武勇さん（高13）  
俳 優

高校時代、父親がコーチだったソフトテニス部時代の思い出に始まり、市内の三つの映画館をはじめとして胸をときめかせたこと、難関だった俳優養成所入りのこと、がむしゃらだった日々のことなどが語られている。忙しい仕事の合間に訪れる古里、九十九の海と母校が英気を養う母港だと結んでいる。

八月三十日  
高橋順子さん（高15）  
詩 人

高校時代、作文が苦手だったが、自分の書いた修学旅行の感想文が選ばれて、校内新聞に掲載され、びつくりしたこと、仏文科に進んだ大学時代の詩との出会い、出版社時代に自費出版した詩集「海まで」に盛り込んだ、自分の原点とも言える九十九里の風景のことなどが語られている。

ことばへのあくなき探求心に終わりはないと記者は結ぶ。

九月五日  
齊藤広宣さん（高38）  
ソフトテニス

高校時代も中学時代から始めたテニスを続け、休みは夏の数日だけという、ボールを追いかける日々のこと、準優勝だったインターハイ決勝戦のことなどがなつかしく語られている。九十五年の世界選手権では優勝を勝ち取り、今年、ナショナルチーム監督就任し、松戸市役所勤務のかたわら、選手の指導や講習会に全国を飛び回る姿が紹介されている。国体選手でもある。

## 出版案内

三十五号で紹介した平山健さん（高10）の「六十になつた私もなりたいたい」が新風舎から出版されました。書店で御覧下さい。



# がんばる母校

## 県総体個人優勝

### インターハイ出場に思う

弓道部顧問 澁谷 義範



この六月に行われた県総体において、二年E組の齋藤貴大君が、見事個人優勝を成し遂げ、八月に佐賀県唐津市で行われたインターハイのキップを手にした。インターハイ出場は高校生の夢、大きな喜びである。一生の思い出となるに違いない。

一方、夢を叶えた者の陰に、多くの者の涙がある。夢をつかんだ者は、そのたくさんの涙の思いを感じて欲しい。そして、家族の皆さんを始め、たくさんの応援・おかげがあったからこそであると感謝す

る気持ちを忘れないで欲しい。今回の喜びの中で、彼を始め部員全員が、夢を目指す厳しさ仲間・ライバルの尊さを再確認し、感謝の気持ちを持つ大人に成長していくことを望んでいる。

選抜バンドに参加して二年 稲垣 裕亮

年に一回、六月に行われる東関東選抜吹奏楽大会では、東関東四県から選抜された高校生による選抜バンドが結成されます。千葉県からは、毎年三月に行われる県個人コンクールでの成績上位者が推薦され、出場することとなります。

私はそのようなバンドがあることは知ってはいましたが、まったく雲の上の話のように

考えていました。しかし自分でも思いもよらないことに、県大会で金賞を受賞し、推薦を受けることができました。

このような評価を得られたのも、所属する吹奏楽部の顧問の先生方、指導して下さる卒業生の先輩や、他にも多くの方々のご声援のおかげです。

吹奏楽部は、更衣室を部室に転用し、普段の練習は一般教室で行うなど、他校と比較しても決して恵まれていない環境の中、日々活動して来ます。低迷していた部員数も今年度は増加し、活動の幅をさらに広げていくべくより一層の努力をしていく所存です。

これからも、吹奏楽部を応援していただければ幸いです。よろしく願いいたします。

# おめでとうございます

## 平成十九年春の叙勲

瑞宝小綬章

布施喜喜さん(高7)

元衆議院参事

議院運営事務功勞

瑞宝単光章

大木啓司さん(高10)

元光町消防団長

消防功勞

## 県土地家屋調査士会

会長就任

椎名 勤さん(高19)

五月第九代会長に就任、

会員約七百人のトップとなった。

## 県新人大会

一一〇mハードル優勝 捧 昂宏君

僕は九月末に行われた県新人大陸上競技大会の一一〇mハードルで、15秒85(向かい風4・8m)で優勝することができました。

大会前に腰を痛めてしまい十分な練習を積みませんでした。十分な練習を積みませんでした。十分な練習を積みませんでした。十分な練習を積みませんでした。十分な練習を積みませんでした。

## 郵政公社総裁賞を受賞

四月二十日(郵政記念日)、

郵政公社総裁から、本校に郵政事業協力団体として感謝状が授与されました。

これは、長年にわたり、野球部員等の本校生徒が年末年始の郵便業務や定時制生徒が非常勤職員として勤務し、郵

政事業に協力したことに対して、八日市場郵便局から御推薦をいただき受賞したものです。

なお、当日は帝国ホテルでの式典に引き続き、皇居拝観の栄を受けました。

(校長 宇井 美樹)

関東大会では、自己記録の更新と、入賞を目標に今自分ができる最高のレースをしてきたいと思えます。

# 中隊長 勝股治郎殿

中第七回卒の勝股治郎先輩が亡くなられた事を知り、大変驚いている。

勝股さんがまだ同窓会長になられる前のある晩、当時同窓会事務局局長の山崎茂雄先生(中3、書道教諭)の家に招かれて勝股さんにお話を伺ったことがあった。

勝股さんは、陸軍士官学校を卒業され会津若松三十六連隊に勤務され大東亜戦争最大の激戦地ガダルカナル島の日米決戦に中隊長として二百余名の部下と共にガ島に上陸した。その時海軍との協定で七日後に米軍陣地に突入するので、その前に海上から援護の艦砲射撃を加えてもらう約束でガ島に上陸した歩兵部隊は、地図の上の距離からして一週間はかかるまいとの判断で部下には三日分の食料を持たせて残余は基地に残して出発した。ところが昼なお暗い密林で巨木や灌木にさえぎられて二十米先も見えない有様で一日にいくらかも進めなかつた。敵はリーダーなどの装置を持ち、こちらの動静は逐一

把握していた模様であった。何日か過ぎて、勝股中隊長は暗やみのような行軍中に部下を見失つてはいけなないと、うしろの兵隊は前の人の背のうをつかんで離さないことと厳命して進むうち、うまく敵の誘導にひつかかつて、米軍のど真ん中に入りこんでしまい袋の鼠同然となり、四方から銃撃を受け進むも引くもできなくなつてしまつた。その時中隊長は一人でも部下を損じまいと死線を突破して逃げ帰つたという。

それまでの陸軍の参謀はソ号作戦といつて、敵は壕を掘つたりして横一線に陣地を敷いているので、こちらも横一線で攻撃する作戦であつた。ところがアメリカとの戦闘ではア号作戦といつて切りかえたものの、敵は縦に深く陣地を築き、日本軍の攻撃は極めて効率が悪く、さんざんに敵にやつつけられることになつたという。その経験を生かして作戦についての重要な考えを内地に帰り参謀に訴える考を持つていた勝股さんは、

内地に帰ることを許されず、栄養失調状態のままベトナムに派遣されることになつた。それは、日本軍敗戦の事実を知られたくないという上層部の考えであつたという。しかし勝股さんが生きて帰られた為に自衛隊の為に彼の考えは戦史の上に貴重な資料として残されることとなつたという。一方海上で待機していた海軍の戦隊はというと、陸軍は突入に当たつて、のろしをあけるか銃声をもつて知らせる筈が何日たつても音沙汰もない。艦船は積み込んだ燃料に限度があるのでいつまでも待つてはられない。遂に何らの援護射撃も出来ないで引き揚げたばかりか、以後陸軍の応援はできなかつたのはこのガ島戦以後のことだといふ。全くの仲違いといふべきであらう。謙虚で偉大であつた勝股さんを偲ぶ時、いつも思いおこされるのは、彼は几帳面で卒業式の挨拶などキチンとコピー機のない時代のことで青焼きした原稿を用意してこられた姿が忘れられません。いまはただ謹んでご冥福をお祈りする次第であります。

## お詫び

「同窓さふさ」第三十五号において左記の誤報がありました。

(誤) 林 晴美さん(高36)

平成18年2月22日逝去

匝瑳市東小笹四二八

(正) 林 晴美さん(高36)

(旧姓 高階)

平成18年2月22日逝去

春日部市備後東

一一五一一四

匝瑳市の林晴美さんはご健在でございます。林晴美さんご家族、関係者の皆様に大変なご迷惑をかけてしまいました。深くお詫び申し上げます。

## 訃報の連絡方法

同窓生数が増えるにつれ同窓会への訃報も毎回多数寄せられます。事務局もきちんと記録しますが、より正確を期する為、次のようにお願ひします。

○逝去者氏名(旧姓)

卒業回数

逝去年月日

住所

○連絡者の氏名

卒業生の場合は回数

現住所、TEL

手紙・ハガキ・または、

FAX

(0479(73)6146)

いずれかで同窓会事務局宛

## お悔やみ申し上げます

ご遺族もしくは関係者から事務局にご連絡いただいた方で、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### 〈恩師逝く〉

佐藤 重次先生(英語)

平成19年7月5日

船橋市飯山満町

光ハイツ三一五八九一

昭和17年〜31年在職

### 〈会員訃報〉

平山重兵衛さん(中6)

平成19年5月9日逝去

匝瑳市片子二九八一

平山 信義さん(中7)

平成19年7月15日逝去

千葉市中央区汐見丘町

- 勝股 治郎さん(中7) 平成19年5月8日逝去
- 菅谷 三郎さん(中11) 平成18年10月15日逝去
- 成田市玉造五一四二一四
- 宮内 良平さん(高2) 平成18年6月22日逝去
- 旭市後草二三〇一
- 伊橋 彪さん(高2) 平成19年7月31日逝去
- 千葉市花見川区柏井 一一一九一四一〇三
- 菊地 雅芳さん(高3) 平成19年1月7日逝去
- 逗子市新宿町三一一一一八
- 川島 静さん(高3) 平成元年 逝去
- 平成元年 逝去
- 埼玉県新座市栄二一三一九
- 伊藤 幸雄さん(高4) 平成18年9月3日逝去
- 旭市八日市場イ二四九五
- 薄田 昇さん(高4) 平成18年11月8日逝去
- 旭市鎌数三八七〇一二
- 遠藤 正浩さん(高4) 平成18年11月11日逝去
- 世田谷区南烏山一八一一二
- クローネ芦花五〇一
- 乗附 清子さん(高4) 平成19年3月21日逝去
- 江戸川区松島 四二二二一〇
- 熱田 茂さん(高4) 平成19年5月13日逝去
- 清瀬市中里一一七一七
- 林 徳司さん(高6) 平成19年5月3日逝去
- 八千代市高津八三一一
- 高津団地二二六二〇七
- 高橋 文彦さん(高12) 平成16年9月14日逝去
- 船橋市西船 二一九一四一六
- 薄 茂さん(高13) 平成19年1月21日逝去
- 千葉市緑区辺田町一一九
- 菅生 洋子さん(高15) 平成17年3月 逝去
- 旭市塙二七八二
- 石毛 敏三さん(高15) 平成19年8月3日逝去
- 杉並区荻窪二二〇一四
- 板橋 實さん(高17) 平成18年11月1日逝去
- 松戸市高塚新田一六〇一五五
- 伊藤 和徳さん(定夜13) 平成19年1月25日逝去
- 旭市蛇園三三八一一三
- 菅内 良和さん(高31) 平成18年10月17日逝去
- 林 胤臣さん(中7) 平成18年11月12日逝去
- 渡辺 孔さん(中12) 平成18年2月28日逝去
- 横浜市南区大岡町 三二二六一二九
- 秋山 正夫さん(中12) 平成18年11月23日逝去
- 若葉区都賀の台二九一三
- 林 豊嗣さん(中16) 平成19年9月5日逝去
- 旭市椎名内三三〇二
- 平山 敬止さん(中17) 平成19年5月8日逝去
- 横芝光町横芝五三〇一三
- 嶋田 三郎さん(中17) 平成19年6月8日逝去
- 千葉市中央区春日 二二二二四
- 星野 哲夫さん(中18) 平成18年3月24日逝去
- 船橋市芝山 三一〇一四〇八
- 林 利さん(中21) 平成19年6月15日逝去
- 平成19年6月15日逝去
- 匝瑳市野手六〇六八一
- 大塚 莞爾さん(併設中2) 平成18年8月18日逝去
- 多摩区三田 四一八一三三三〇六
- 布施 浩さん(高2) 平成19年7月2日逝去
- 君津市三田四二〇
- 並木 博信さん(中10) 平成19年4月19日逝去
- 佐倉市大崎八四八一六
- 高倉 淳一さん(中11) 平成19年7月2日逝去
- 小田原市荻窪四八七
- 江ヶ崎 保さん(中10) 平成17年9月21日逝去
- 匝瑳市春海一一九一
- 鈴木 弘さん(中9) 平成17年10月17日逝去
- 多古町多古二六一六
- 市東 國男さん(中9) 平成19年7月2日逝去
- 匝瑳市八日市場イ二五四一
- 大川 秋嘉さん(中8) 平成19年8月5日逝去
- 旭市八四四
- 筒井 弘さん(中8) 平成16年2月13日逝去
- 片岡 宏太さん(中8) 平成19年1月9日逝去
- 茂原市南吉田一三一四一三
- 三橋 弘毅さん(中7) 平成19年8月23日逝去
- 匝瑳市内山二〇二五
- 林 胤臣さん(中7) 平成18年11月12日逝去
- 勝股 治郎さん(中7) 平成19年5月8日逝去
- 匝瑳市栢田八六六一一
- 高橋 文彦さん(高12) 平成16年9月14日逝去
- 船橋市西船 二一九一四一六
- 薄 茂さん(高13) 平成19年1月21日逝去
- 千葉市緑区辺田町一一九
- 菅生 洋子さん(高15) 平成17年3月 逝去
- 旭市塙二七八二
- 石毛 敏三さん(高15) 平成19年8月3日逝去
- 杉並区荻窪二二〇一四
- 板橋 實さん(高17) 平成18年11月1日逝去
- 松戸市高塚新田一六〇一五五
- 伊藤 和徳さん(定夜13) 平成19年1月25日逝去
- 旭市蛇園三三八一一三
- 菅内 良和さん(高31) 平成18年10月17日逝去

訃報訂正

さふさ35号  
 山本 中庸さん(中18)  
 平成18年9月27日逝去  
 松戸市松戸新田一一七は  
 匝瑳市長岡八四に  
 訂正をお願いします。

終身会費納入者

平成十九年四月二日から  
九月十三日受付まで。

Table listing members who have paid their lifetime dues. Columns include member names and their corresponding dues in thousands of yen (e.g., 高野 和江 (高二十六回)).

年会費納入者

平成十九年四月二日から  
九月十三日受付まで。  
名前の下の数字は納入して  
いただいた年数を示します。

Table listing members who have paid their annual dues. Columns include member names and their corresponding dues in thousands of yen (e.g., 伊藤 進 5 (高四十三回)).

編集委員会より

●編集委員長が代わりました。  
「同窓さふさ」も財政上の問題もあり、発行回数検討がせまられております。今しばらくはホームページと連携しながら、発行を続けたい。

●編集員の米本雅男さん(高10)が、八月に行われた全日本教職員バドミントン選手権大会、65歳以上男子ダブルスの部で見事、優勝しました。

第36号編集委員

Table listing the members of the 36th issue editing committee, including names and their dues (e.g., 馬淵 英夫 (高10)).